

コムギ新奨励品種「ゆきちから」における
赤かび病の病勢進展の特徴と防除対策

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成15年度より奨励品種として採用された「ゆきちから」は、タンパク含有率および製パン特性が高いことから需要が多く、今後の作付け拡大が期待されている。本品種は登熟後期における赤かび病の病勢進展が顕著であること、その抑制のためには乳熟期の薬剤散布が有効であることが明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 「ゆきちから」は、本県の主要コムギ品種である「シラネコムギ」と比較して、登熟後期における赤かび病の病勢進展が顕著である(図2)。
- 2) 従来品種の基本防除回数(2回)において、1回目を開花盛期、2回目をその10日後に散布した場合(慣行2回体系)と2回目を乳熟期に散布した場合(乳熟2回体系)では、乳熟2回体系で有意に被害粒が抑制される(図1)。
- 3) 乳熟2回体系では慣行2回体系よりも粒厚の高い粒での被害が少なく、粒厚選別(2.4mmふるい)による被害粒除去効果がより有効になる(図3)。

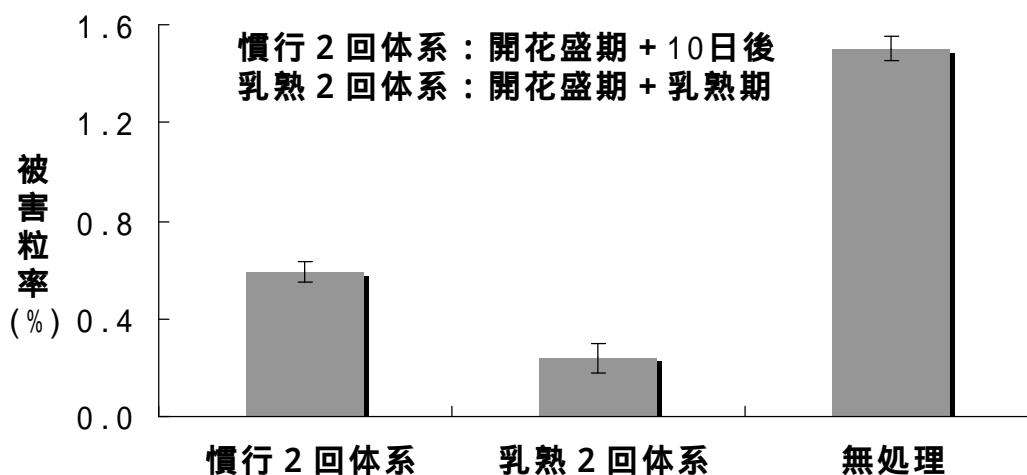


図1 防除体系別被害粒率

注) 図中のバーは標準誤差を示す

3 利活用の留意点

- 1) 本試験はオファネートM乳水和剤を用いた、2004年の場内での結果である。
- 2) 開花盛期防除は5月第5半旬、乳熟期防除は乳熟期間の後期(6月第3半旬)に行った。
- 3) 「ゆきちから」の防除回数については乳熟期防除を加味した体系で別途試験が必要である。

(問い合わせ先: 古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

農作物有害動植物発生予察事業（平成16年）

2) 参考データ

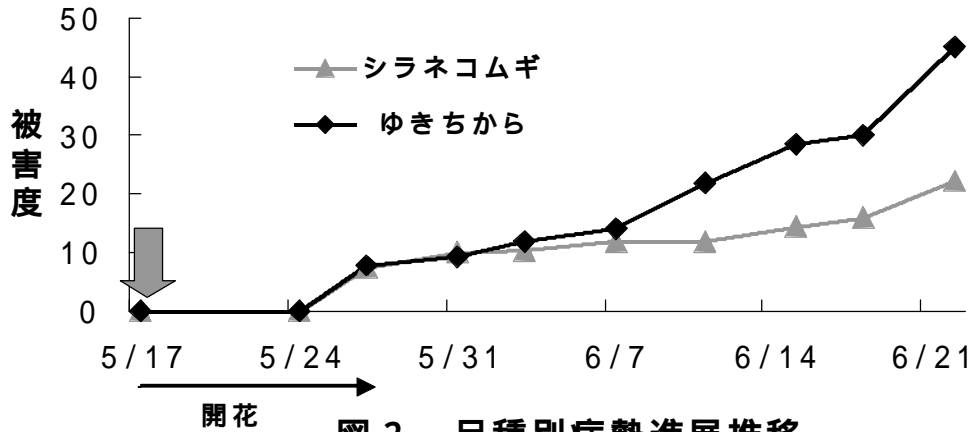


図2 品種別病勢進展推移

注1) 出穂日5/5, 開花初期5/15

注2) 接種日5/17 (矢印)

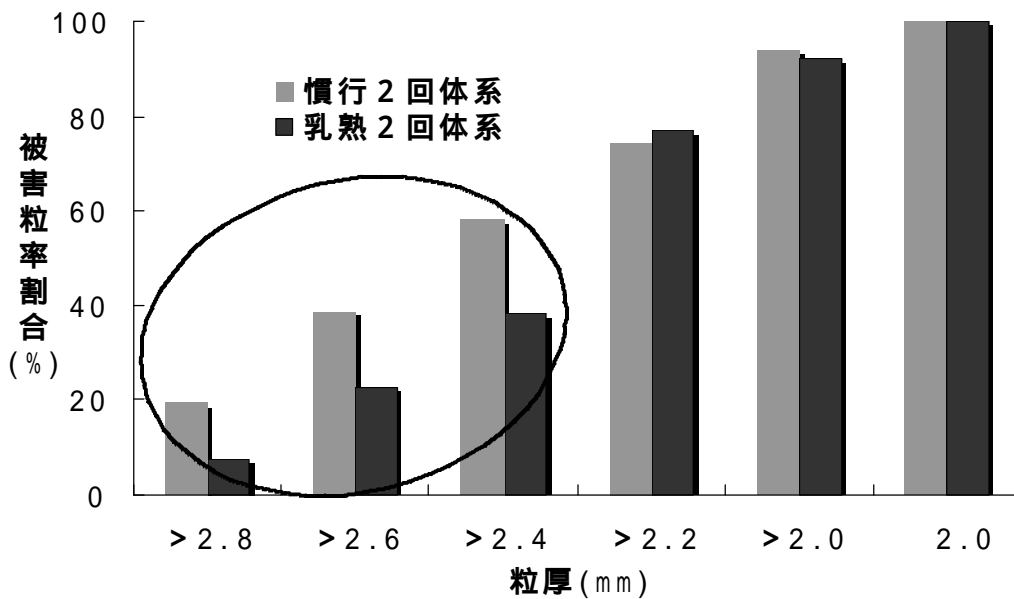


図3 粒厚別被害粒率割合

注) 全被害粒に対する粒厚別被害粒の割合

3) 発表論文等

平成16年度農業試験研究成果情報候補（一部）